

坂城町内遺跡発掘調査報告書2012

—平成24年度試掘・立会い調査報告書—

2013. 3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成24年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
担当者 助川 朋廣、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
協力者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
教 育 長 宮崎 義也
教育文化課長 柳澤 博
文化財係長 助川 朋廣
文 化 財 係 時信 武史
赤池 利博、朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、中沢 あつみ、萩野れい子
（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、() 内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図に縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

目 次

例 言

凡 例

第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 試掘調査の結果	6
1 四ツ屋遺跡群13	6
2 町横尾遺跡5	8
3 寺浦遺跡V	10
4 込山遺跡群3	12
第Ⅲ章 立会い調査の結果	14

報告書抄録

第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合点にあたり、普光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半遇の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は4、5ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が目目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土製の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡（1-8）が目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、豊饒堂遺跡（20）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窟跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山庵寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法庵寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学術に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

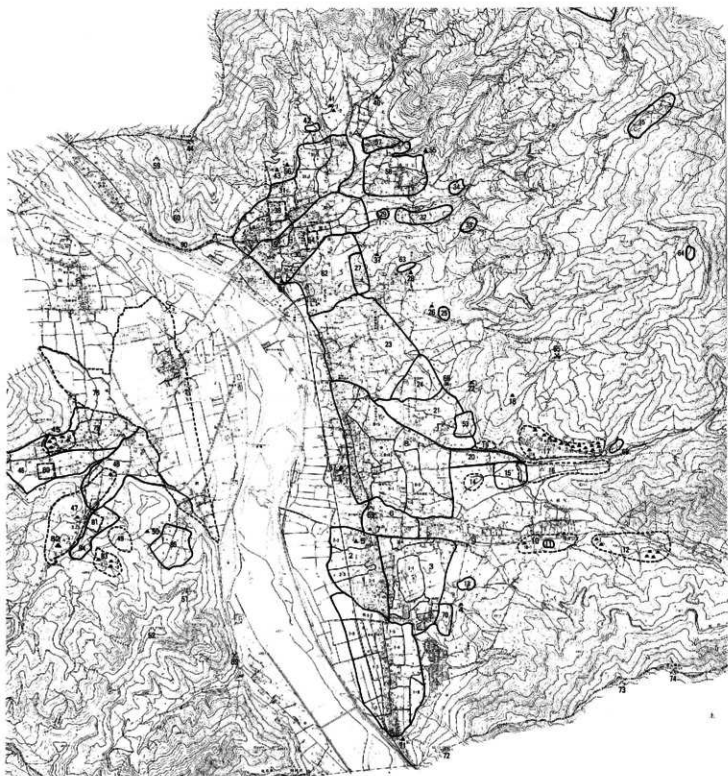
註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告—』1979『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告—』1983『宮上遺跡Ⅰ』1995『東表遺跡』1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺光遺跡・東町遺跡』1996『寺治遺跡Ⅱ』2000『開畝遺跡Ⅲ』2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2002『保地遺跡Ⅱ』
- 岡 孝一 1966『長野県史料部保地遺跡発掘調査報告』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森崎 稔ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998『第5編 開畝遺跡』『北陸新幹線線路文化財発掘調査報告書2』（財）長野県線路文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』『第11章 観音平経塚』『上信越自動車道線路文化財発掘調査報告書2』（財）長野県線路文化財センター



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



坂城町遺跡分布図

図面番号	講 題 名	種 別	時 代
1	南条遺跡群	墓塚址	弥生~平安
-1	南条遺跡群 南条遺跡	墓塚址	弥生~平安
-2	南条遺跡群 飯沼遺跡(墓塚)	墓塚址	弥生~平安
-3	南条遺跡群 田々目川遺跡	墓塚址	弥生~平安
-4	南条遺跡群 中河遺跡(輪地)	墓塚址	弥生~平安
-5	南条遺跡群 田中遺跡	墓塚址	弥生~平安
-6	南条遺跡群 越ヶ目遺跡	墓塚址	弥生~平安
-7	南条遺跡群 南条遺跡(田畑)	墓塚址	弥生~平安
-8	南条遺跡群 新木下遺跡	水田址	弥生~平安
2	全井東遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	全井東遺跡群 全井遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	全井東遺跡群 杜宮南遺跡(倉庫跡)	墓塚址	縄文~平安
-3	全井東遺跡群 新木下遺跡	墓塚址	縄文~平安
3	全井東遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	全井東遺跡群 保地遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	全井東遺跡群 山井井遺跡	墓塚址	縄文~平安
-3	全井東遺跡群 大木久保遺跡(南条小学校敷地)	墓塚址	縄文~平安
-4	全井東遺跡群 藤玉遺跡	墓塚址	縄文~平安
4	栗ヶ谷古墳	古墳	古墳
5	杜宮神領跡	庭 坪	中世
6	阿我遺跡	館跡	縄文~平安
7	北畑古墳	古墳	古墳(後期)
8	中之条遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	中之条遺跡群 舟渡遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	中之条遺跡群 上町遺跡	墓塚址	弥生~平安
-3	中之条遺跡群 堂町遺跡	墓塚址	弥生~平安
-4	中之条遺跡群 北浦遺跡	墓塚址	縄文~平安
-5	中之条遺跡群 上浦遺跡	墓塚址	縄文~平安
-6	中之条遺跡群 北川津遺跡	墓塚址	縄文~平安
9	熊島大古墳(源六古墳)	古墳	古墳(後期)
10	北川津古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	北川津古墳群 入城塚支群 向原古墳	古墳	古墳(後期)
-2	北川津古墳群 入城塚支群 刈原古墳	古墳	古墳(後期)
11	入城塚遺跡	館跡	平安
12	野川古墳群 上原支群	古墳	古墳(後期)
13	野原塚墓群	墳 墓	中世~近世
14	柳堂川古墳群 山口支群	古墳	古墳(後期)
15	山崎遺跡	館跡	縄文
16	柳堂川古墳群 山崎支群	古墳	古墳(後期)
17	柳堂川古墳群 新山支群	古墳	古墳(後期)
-1	柳堂川古墳群 新山1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	柳堂川古墳群 新山2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	柳堂川古墳群 新山3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	柳堂川古墳群 新山4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	柳堂川古墳群 新山5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	柳堂川古墳群 新山6号墳	古墳	古墳(後期)
-7	柳堂川古墳群 新山7号墳	古墳	古墳(後期)
-8	柳堂川古墳群 新山8号墳	古墳	古墳(後期)
-9	柳堂川古墳群 新山9号墳	古墳	古墳(後期)
-10	柳堂川古墳群 新山10号墳	古墳	古墳(後期)
-11	柳堂川古墳群 新山11号墳	古墳	古墳(後期)
-12	柳堂川古墳群 新山12号墳	古墳	古墳(後期)
-13	柳堂川古墳群 新山13号墳	古墳	古墳(後期)
-14	柳堂川古墳群 新山14号墳	古墳	古墳(後期)
18	柳堂川古墳群 夏平支群 二塚古墳	古墳	古墳(後期)
19	柳堂川古墳群 山田支群	古墳	古墳(後期)
20	集積倉遺跡(山崎北遺跡)	墓塚址	縄文~弥生
21	駒崎遺跡	墓 塚	弥生~平安
22	人塚古墳	古墳	古墳(後期)
23	駒ヶ野遺跡群	墓塚址	縄文~平安
24	虎久保遺跡	墓塚址	古墳~平安
25	入田遺跡	館跡	奈良~平安
26	塚内古墳(柳堂川古墳)	古墳	古墳(後期)
27	全比羅山遺跡	館跡	縄文~平安
28	藤平庭跡	庭 坪	中世
29	丸山の原遺跡	館 跡	平安
30	比山遺跡群	墓塚址	縄文~平安
-1	比山遺跡群 比山A遺跡(水止)	墓塚址	縄文~平安
-2	比山遺跡群 比山B遺跡(林内跡)	墓塚址	縄文~平安
-3	比山遺跡群 比山C遺跡(比山)	墓塚址	縄文~平安
-4	比山遺跡群 比山D遺跡(柳堂)	墓塚址	縄文~平安
-5	比山遺跡群 比山E遺跡(立町)	墓塚址	縄文~平安
31	百名沢遺跡群	墓塚址	弥生~平安
-1	百名沢遺跡群 百名沢遺跡	墓塚址	弥生~平安
-2	百名沢遺跡群 長山遺跡	墓塚址	弥生~平安
32	土井ノ入遺跡	館 跡	奈良~平安
33	平林遺跡	館跡	縄文

図面番号	講 題 名	種 別	時 代
34	徳川宮跡	宮 跡	平安
35	平沢遺跡	館跡	縄文
36	柳平遺跡群	墓塚址、館跡	縄文~平安
-1	柳平遺跡群 柳平A遺跡	墓塚址	縄文~平安
-2	柳平遺跡群 柳平B遺跡	館跡	弥生
-3	柳平遺跡群 柳平C遺跡	館跡	平安
37	全比羅山宮跡	古墳	古墳(後期)
38	村上長野遺跡	城跡群	中世
39	丸の内平野跡	館跡	縄文
40	北比羅山遺跡	古墳	古墳(後期)
41	北比羅山穴倉遺跡	古墳	古墳(後期)
-1	北比羅山穴倉1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	北比羅山穴倉2号墳	古墳	古墳(後期)
42	柳ノ木遺跡	館跡	縄文
43	藤田館跡	館 跡	奈良
44	新屋館跡	城跡群	中世
45	出流沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	出流沢古墳群 出流沢宮1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	出流沢古墳群 出流沢宮2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	出流沢古墳群 出流沢宮3号墳	古墳	古墳(後期)
-4	出流沢古墳群 出流沢宮4号墳	古墳	古墳(後期)
-5	出流沢古墳群 出流沢宮5号墳	古墳	古墳(後期)
-6	出流沢古墳群 出流沢宮6号墳	古墳	古墳(後期)
-7	出流沢古墳群 出流沢宮7号墳	古墳	古墳(後期)
46	真藤遺跡	墓塚址	弥生~平安
47	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 小野沢宮1号墳(柳堂川古墳)	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 小野沢宮2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 小野沢宮3号墳(ヤツク古墳)	古墳	古墳(後期)
-4	福沢古墳群 小野沢宮4号墳	古墳	古墳(後期)
48	小野沢遺跡	館跡	弥生~平安
49	福沢古墳群 新堂支群	古墳	古墳(後期)
50	熊島寺宮古墳	古墳	古墳(後期)
51	飯塚館跡	城跡群	中世
52	三木城跡	城跡群	中世
53	隈取館跡	城跡群	中世
54	比山南平跡	作庭跡	平安
55	熊倉平庭跡	庭 坪	中世
56	草田小田南跡	城跡群	中世
57	藤玉館跡	館跡	奈良~平安
58	新比羅山遺跡	墓塚址	弥生~平安
59	丸尾城跡小段跡	城跡群	中世
60	新井跡	城跡群	中世
61	佐木代宮跡	館跡	古墳~平安
62	田町遺跡群	館跡	中世
63	柳所遺跡群	墳 墓	中世
64	夏平館跡	館 跡	平安
65	中之条石切跡	作庭跡	近世
66	越戸古宮	古墳	古墳(後期)
67	中之条石切跡群	館跡	近世
68	北浦館跡	館 跡	平安
69	鎌倉城跡	城跡群	中世
70	津野の川遺跡(宮内寺跡)	館跡	奈良~中世
71	口野館跡	館跡	近世
72	和合館跡	城跡群	中世
73	高ツケ館跡	城跡群	中世
74	遠安館跡	城跡群	中世
75	柳堂川南比羅山跡	作庭跡	近世
76	藤倉遺跡	館跡	平安
77	赤城館跡	城跡群	中世
78	上五明寺水田址	水田址	平安~近世
79	出流沢遺跡	墓塚址	縄文~平安
80	村上長野遺跡	城跡群	中世
81	柳沢氏館跡	城跡群	中世
82	小野沢遺跡	館 跡	奈良~平安
83	福沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-1	福沢古墳群 五塚支群1号墳	古墳	古墳(後期)
-2	福沢古墳群 五塚支群2号墳	古墳	古墳(後期)
-3	福沢古墳群 五塚支群3号墳	古墳	古墳(後期)
84	定宿館跡	墓塚址	縄文~平安
85	新屋館跡	墓塚址	縄文~平安
86	藤田館跡	館跡	平安
87	真藤館跡	館跡	近代
88	真藤館跡	館跡	近代
89	上平野館跡	館跡	近代
90	柳堂北浦館跡	館跡	近世

第Ⅱ章 試掘調査の結果

1 よつ やい せきぐん 四ツ屋遺跡群13

所在地 坂城町大字坂城9333-1

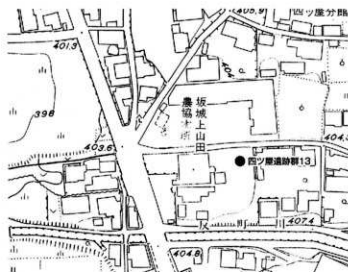
事業主体 ちくま農業協同組合

事業名 事務所建設事業

調査期間 平成24年4月16・17日

面積 1,865㎡ (81㎡)

担当者 時信 武史



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

四ツ屋遺跡群は、「坂城町遺跡分布図」によると坂城地区の四ツ屋、御所沢に広がる縄文時代から中世の集落址とされる遺跡である。本遺跡群は名沢川や入田川によって形成された扇状地に立地している。

本遺跡群内ではこれまでに13回の試掘調査が行われているが、集落址として積極的に評価できる成果は得られていない。

今回、ちくま農業協同組合による事務所建設事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、御堂川の形成する扇状地の扇端付近に位置している。東西方向に試掘トレンチを2か所設定し、遺構の有無を確認した。

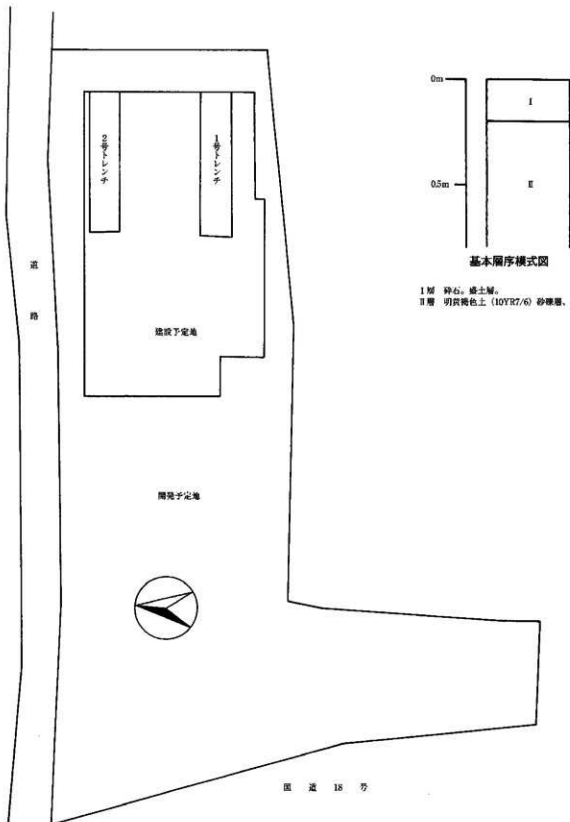
トレンチを現地表面から約0.2m掘り下げたところ、明黄褐色の地山層が検出されたが、遺構は確認できなかった。



1号トレンチ検出状況 (東より)



2号トレンチ検出状況 (東より)



試験トレンチ設定図 (1:400)

2 まらよこおいせき 町横尾遺跡5

所在地 坂城町大字南条4768他
事業主体 個人
事業名 宅地造成事業
調査期間 平成24年7月4・5日
面積 2,006㎡ (125㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

町横尾遺跡は坂城町大字南条に所在し、西方向に流下する谷川の扇状地の扇中央付近、標高約430m付近に位置する。「坂城町遺跡分布図」によると縄文～平安時代の集落址とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成8年度は宅地造成事業、平成16・18年度は道路改良事業によって試掘調査を行ったが、平成8・18年度調査地点からは堅穴住居址や土坑が検出されている。

今回、個人による宅地造成事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西面する緩斜面に位置している。東西方向に1か所、南北方向に1か所の試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

トレンチを現地表面から約0.3m掘り下げたところ、1号トレンチにおいて住居址1棟と土坑を、2号トレンチにおいても住居址1棟と土坑数基を検出した。

試掘調査の結果を踏まえて事業主と再協議を行い、開発計画を保留することとして調査を終了した。



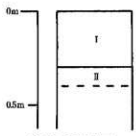
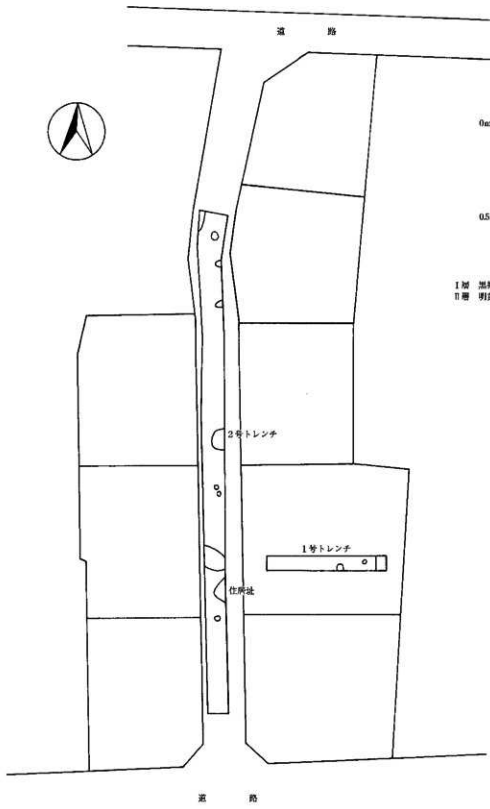
試掘調査位置図 (1:2500)



1号トレンチ検出状況 (西より)



2号トレンチ検出状況 (南東より)



基本層序模式図

- I層 黒褐色土 (10YR2/3) 耕作土層。
- II層 明黄褐色土 (10YR6/6) 砂礫土、堆山層。

試掘トレンチ設定図 (1 : 400)

3 寺浦遺跡V

所在地 坂城町大字中之条1136-1他
事業主体 坂城町建設課
事業名 道路改良事業
調査期間 平成24年7月19日
面積 320㎡ (110㎡)
担当者 時信 武史

遺跡の環境と調査にいたる経緯

寺浦遺跡は、坂城町中之条に所在し、標高429m内外を測る御堂川によって形成された扇状地の扇中部に立地する。「坂城町遺跡分布図」によると縄文～平安時代の集落址とされ、平成6年度に実施された発掘調査では、古墳時代後期と思われる大型の掘立柱建物の検出や8号住居址から平安時代の緑釉陶器片が出土していることから、一般集落ではなく郷家の存在を予想できる古代の集落址である可能性が指摘されている。

今回、坂城町建設課による道路改良事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

調査の成果

今回の計画地は、西面する緩斜面に位置している。南北方向に試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.5mにて地山の砂礫層を検出し、この面を確認面とする土坑15基が検出された。遺物は出土しなかったため時期は不明である。

試掘調査の結果を踏まえて事業主と再協議を行い、記録保存のための発掘調査を実施することとして調査を終了した。



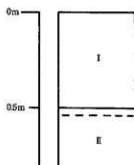
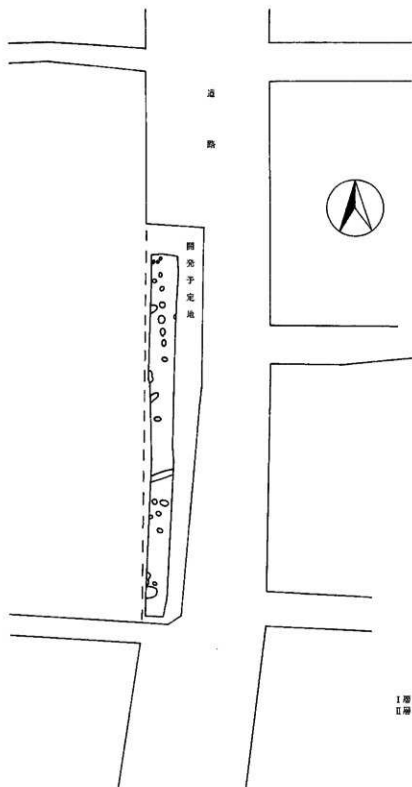
試掘調査位置図 (1:2500)



トレンチ掘削状況 (北より)



トレンチ検出状況 (北より)



基本層序模式図

- I層 黒褐色土 (10YR3/2) 耕作層。
 II層 明黄褐色土 (10YR6/6) 礫を多く含む土層、堆積層。

試掘トレンチ設定図 (1 : 500)

4 込山遺跡群 3

所在地 坂城町大字坂城6193-1他

事業主体 ちくま農業協同組合

事業名 宅地造成事業

調査期間 平成24年9月3～5日

面積 1,234㎡ (252㎡)

担当者 時信 武史



試掘調査位置図 (1:2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山遺跡群は込山A～E遺跡等で構成されている。同遺跡群内には9世紀初頭の寺院址とされる込山廃寺があり、昭和28年に坂城小学校の校庭を拡張した際に礎石や古瓦が出土した。

込山B遺跡では平成11年度と13年度に町営住宅の建設に伴って発掘調査が実施され、弥生時代中期及び奈良・平安時代の住居址が検出された。

込山C遺跡では昭和36年に縄文時代中期の土器を伴う配石遺構が検出されたことが報告されている。

今回、ちくま農業協同組合による宅地造成事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。



1号トレンチ検出状況 (東より)

調査の成果

今回の計画地は、西面する緩斜面に位置している。東西方向に試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

試掘調査の結果、地表下約0.5mにて地山の黄褐色土層を検出し、この面を確認面とする堅穴住居址9棟、土坑4基、溝状遺構1条が検出された。遺物は出土しなかったため時期は不明である。

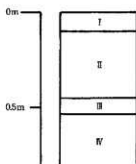
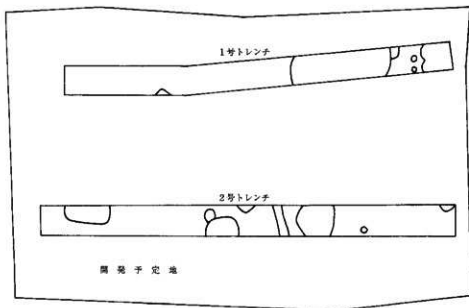
試掘調査の結果を踏まえて事業主と再協議を行い、盛土保存を実施することとして調査を終了した。



2号トレンチ検出状況 (東より)



道 路



基本層序模式図

- I層 砂石層。
- II層 盛土層。
- III層 灰黄褐色土 (10Y4/2)、砂礫層。
- IV層 黄褐色土 (10Y5/8)、地山層。

試掘トレンチ設定図 (1:400)

第三章 立会い調査の結果

No.	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (㎡)	調査期間
1	金井東遺跡群	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	78	H24年5月7日～ H24年9月28日
2	町横尾遺跡	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	78	H24年5月7日～ H24年9月28日
3	川町遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	23	H24年5月7日～ H24年9月28日
4	上五明条里水田址	千曲建設事務所	上五明	道路改良事業	670	H24年4月9日～ H24年10月31日
5	山崎遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	中之条	携帯電話鉄塔建設	121	H24年5月28日～ H24年7月28日
6	町横尾遺跡	坂城町建設課	南条	下水管埋設	750	H24年6月4日～ H25年1月31日
7	塚田遺跡	日精樹脂株式会社	南条	駐車場造成	2,787	H24年9月15日～ H24年9月30日
8	日名沢遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	229	H24年10月3日～ H25年1月31日
9	町横尾遺跡	個人	南条	個人住宅建設	340	H24年9月28日～ H25年1月31日
10	町横尾遺跡	個人	南条	個人住宅建設	269	H24年10月2日～ H25年3月10日
11	出浦遺跡	坂城町建設課	村上	下水管埋設	1,000	H24年10月22日～ H25年3月31日
12	上五明条里水田址	坂城町建設課	村上	下水管埋設	1,150	H24年10月22日～ H25年3月31日
13	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	配水管埋設	410	H24年10月3日～ H25年1月31日
14	込山遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	9	H24年10月17日～ H24年12月12日
15	金井東遺跡群	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	24	H24年10月17日～ H24年12月21日
16	出浦遺跡	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	500	H24年11月5日～ H25年3月31日
17	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	村上	配水管埋設	560	H24年11月5日～ H25年3月31日
18	金井遺跡	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	57	H24年10月18日～ H24年12月25日
19	上町遺跡	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	589	H24年10月3日～ H25年3月31日
20	南条塚穴古墳	上田水道管理事務所	南条	配水管埋設	589	H24年10月3日～ H25年3月31日
21	町横尾遺跡	個人	南条	個人住宅建設	252	H24年10月29日～ H25年3月10日
22	谷川古墳群上原支群	千曲建設事務所	南条	河川改修	84	H24年10月29日～ H24年12月28日
23	谷川古墳群	千曲建設事務所	南条	河川改修	104	H24年11月50日～ H25年1月31日
24	上五明条里水田址	個人	村上	個人住宅建設	767	H24年12月12日～ H25年7月31日
25	田町遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	16	H24年11月13日～ H24年12月13日
26	上五明条里水田址	長野地方事務所	村上	落石防護工建設	57	H24年11月26日～ H25年3月8日
27	田町遺跡群	個人	坂城	個人住宅建設	464	H24年11月19日～ H25年3月15日
28	上五明条里水田址	国際石油開発帝石株式会社	村上	パイプライン埋設	10	H24年12月14日～ H25年1月13日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

報告書抄録

ふりがな	さかきちょうないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2012
副書名	平成24年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
編著者名	助川 朋廣・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2013年3月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
四ツ屋遺跡群13	坂城町大字坂城	20521		36°27'15"	138°11'15"	2012年4月16日 2012年4月17日	81	事務所建設事業
町横尾遺跡5	坂城町大字南条	20521		36°26'32"	138°11'37"	2012年7月4日 2012年7月5日	125	宅地造成事業
寺浦遺跡V	坂城町大字中之余	20521		36°26'39"	138°11'40"	2012年7月19日	110	道路改良事業
込山遺跡群3	坂城町大字坂城	20521		36°27'53"	138°10'57"	2012年9月3日 2012年9月5日	252	宅地造成事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
四ツ屋遺跡群13	集落址	縄文～中世	なし	なし	
町横尾遺跡5	集落址	縄文～平安	住居跡、土坑	なし	
寺浦遺跡V	集落址	縄文～平安	住居址、土坑	縄文土器、土師器、須恵器	
込山遺跡群3	集落址	縄文～平安	住居址、土坑	なし	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊鏡堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『成久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅱ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊鏡堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集	『込山遺跡群 込山C遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2006
第28集	『込山遺跡群 込山D遺跡Ⅰ』	2007
第29集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集	『南条遺跡群 青木下遺跡Ⅱ・Ⅲ』	2007
第31集	『開畝遺跡Ⅳ』	2008
第32集	『町横尾遺跡Ⅱ』	2008
第33集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅳ・Ⅴ』	2009
第35集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅳ』	2010
第37集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2010』	2011
第39集	『町横尾遺跡Ⅲ』	2012
第40集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2011』	2012
第41集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅴ』	2013
第42集	『中之条遺跡群 山口遺跡Ⅰ』	2013
第43集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2012』（本書）	2013

坂城町埋蔵文化財調査報告書第43集

坂城町内遺跡発掘調査報告書2012

発行日 2013年3月29日

編集者 坂城町教育委員会

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城 6362-1

TEL 0268 (82) 1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和用1丁目30番3号

TEL 026 (243) 2105

